



令和6年度

# 11月 三大幼だより

江東区立第三大島幼稚園

令和6年10月31日



三大幼 HP は  
こちらから



## 感じる秋

園長 安田 徳章

10月の園庭は、収穫祭のような歓声で包まれた日が2回もありました。

まず始めはカキの収穫です。今年も、高いところになっているカキの実が地面に落ちて割れてしまわないように、こどもたちがビニールシートを広げて落ちてくるカキをキャッチしました。大きく実ったカキの実を受け止め、ドスン！という重さを感じる度に大きな歓声があがります。

もう一つは、年長児が畑で育てたサツマイモの収穫です。長く伸びたサツマイモのつるを力を合わせて引っ張ると、大きなサツマイモが顔をのぞかせます。様々な形や大きさのサツマイモが掘り出される度に、「わーっ、大きい！」「カボチャみたい！」などと近くで見ている年中組も一緒に驚きや喜びの声をあげていました。長い長いつるは、固定遊具に吊るしたりひっぱりっこをしたり、年長児はリース作りも行いました。うんていやジャングルジム、登り棒では「さんだいジャングルができた！」と喜んで、ターザンになったイメージで渡ったりのぼったり、体も楽しく動かしていました。

他にも、すいすい池の上の夏みかんの実が少しずつ黄色くなっていることに気が付き、落ちている実をむいてしぼってみて、色を見たりにおいをかいだりしているこどもたちです。

収穫したサツマイモは、どのようにして食べるかを年長児が相談中です。カキも干し柿にしているので、秋の自然を食べて感じる体験もする予定です。

こどもたちが自然に触れる中で発している言葉を聞いていると、まさに諸感覚を豊かに働かせて、様々な、気づき感じて考えていることが感じ取れます。そして、レイチェル・カーソンの有名な「わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。」(1)という言葉思い出します。

様々な自然に触れることができる恵まれた園庭は、「感じる」体験にあふれ、こどもたちの感性を豊かに育てています。こどもたちの豊かな感性に触れると、私たちも幸せを感じ、自然への感謝の気持ちでいっぱいになります。収穫の様子は、本園ホームページなどでもご覧いただけます。

引用文献(1)レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』新潮社



## 今月の指導のポイント



### 年中りんご組

朝晩と日中の寒暖差が感じられる季節になりました。こどもたちは戸外で元気に走ったり虫を探したりして遊んでいます。さんだいスポーツフェスティバルの経験を通して、年長児とリレーを楽しむ姿もあります。簡単なルールのある遊びを取り入れて、楽しさを感じられるようにしていきます。

また、園庭の自然の変化に気付いたり園外保育で自然物を集めたりする活動を通して、秋の自然に興味・関心をもち関われるようにしていきます。

生活面では、昼食後の歯磨きを始めています。安全に取り組めるよう、園でのやり方や決まりを伝えていきます。引き続き、手洗い・うがいの大切さを確認し、自分から必要感をもって丁寧に取り組めるようにします。また、自分なりに園生活の見通しをもち、身の回りのことに進んで取り組めるようにしていきます。

### 年長にし組

さんだいスポーツフェスティバルでは、リズムやリレーだけでなく、司会や係など、友達と力を合わせて取り組んだり、自分の目標に向かって挑戦したりすることを通して、達成感や満足感を味わうことができました。

園外保育で拾ったドングリを使い、いろいろ試し、工夫しながら、ドングリを転がすコース作りを考えました。サツマイモの収穫では、会食について話し合い、またイモのツルでリースの土台作りをして今後の飾り付けを楽しみにしています。

12月にあるこども会に向けて、話の内容を考えたり、必要なものを相談したりします。今までの遊びの経験を思い出し、自分のイメージを様々な素材や用具を使って表現し、役になりきり動きや言葉で表す楽しさを味わえるようにしていきます。また、友達と取り組む中で、友達のようにとこに気づき認め合える喜びを感じられるようにします。